

第6期神戸市介護保険事業計画策定に向けた実態調査結果報告詳細

(施設調査)

1

定員数・待機者数

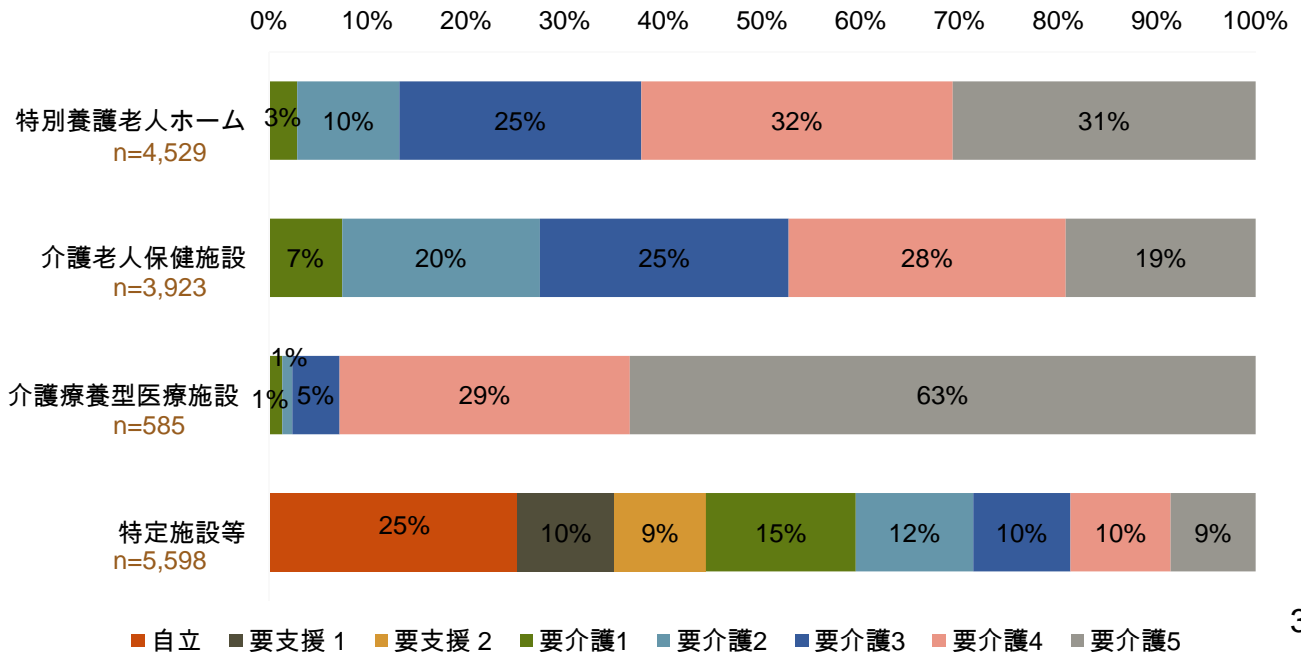
	特別養護老人 ホーム	老人保健施設	介護療養型 医療施設	特定施設等
施設数 (回答数)	78施設	45施設	11施設	92施設
定員数	4,659人	一般棟 3,181人 専門棟 1,193人 計 4,274人	648人	6,895人
1施設あたり	平均59.7人	平均97.1人	平均58.9人	平均74.9人

	特別養護老人 ホーム	老人保健施設	介護療養型 医療施設	特定施設等
施設数 (回答数)	78施設	45施設	11施設	92施設
待機者数	11,841人	145人	36人	387人
1施設あたり	平均169.2人	平均4.3人	平均3.3人	平均4.2人

2

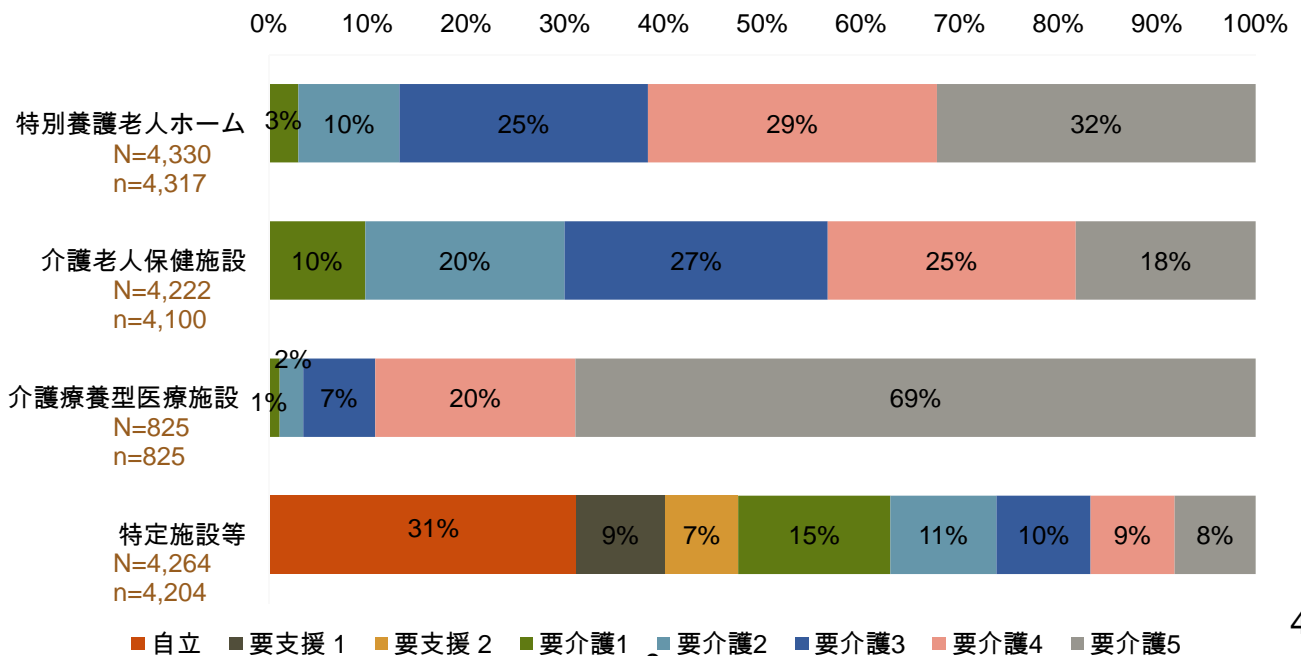
入所者の要介護度

入所入院者の要介護度分布を比較すると、構成比が高いのは、特別養護老人ホームでは「要介護4」が32%(29%)及び「要介護5」が31%(32%)、老人保健施設では「要介護3」25%(27%)「要介護4」28%(25%)、介護療養型医療施設では「要介護5」63%(69%)となっている。
 特定施設等では「自立」25%(31%)だが、要支援・要介護ともほぼ同様の割合となっている。



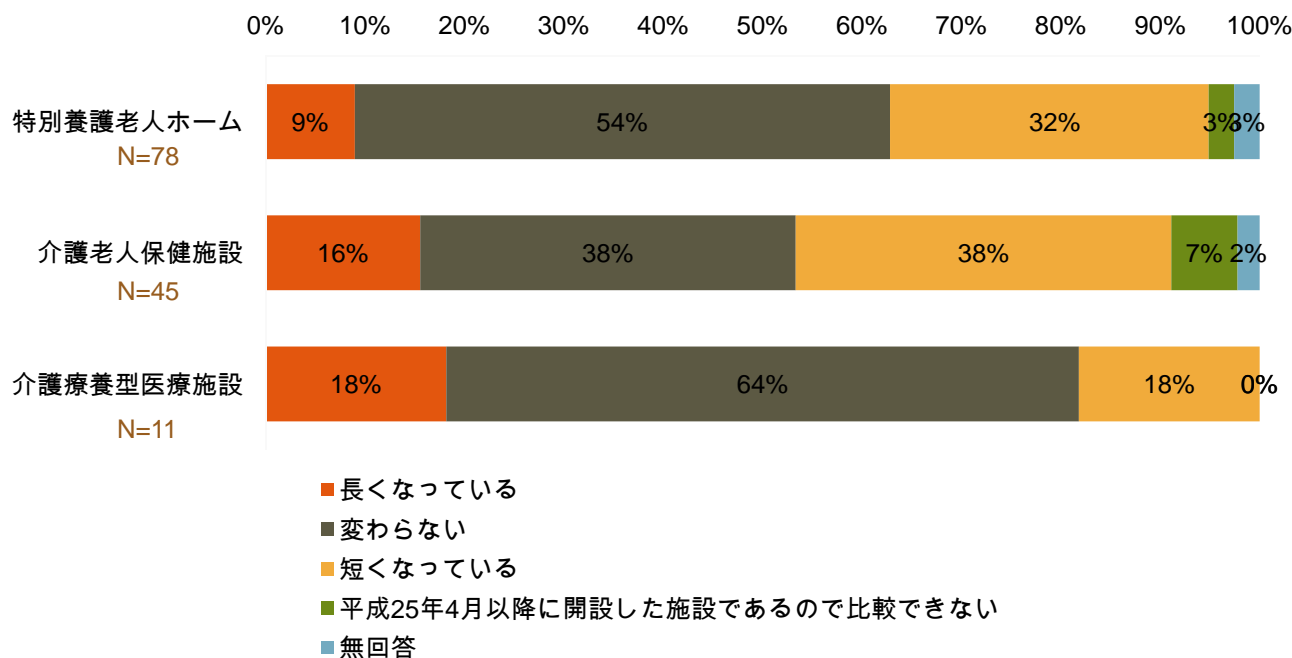
入所者の要介護度

参考：平成22年度調査



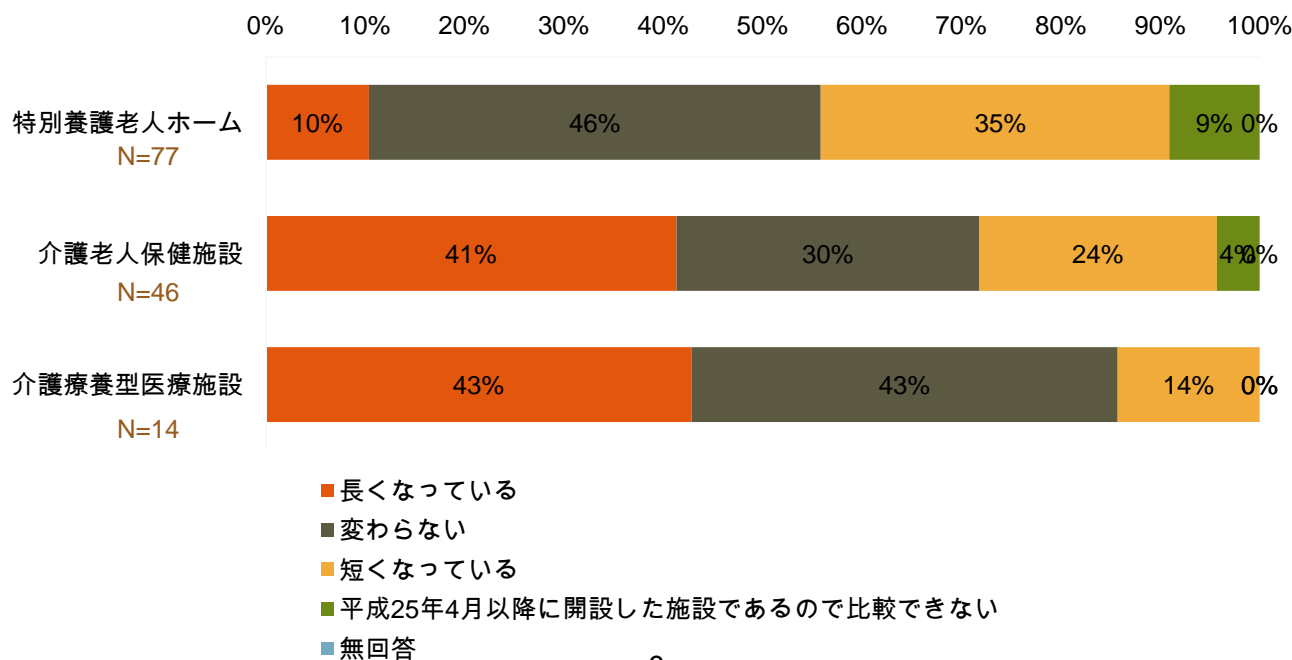
退所・退院者の入所・入院期間の変化

2～3年前とくらべて退所・退院者の平均入所・入院期間の変化については、特別養護老人ホーム・介護療養型医療施設では「変わらない」と回答した施設が多い。老人保健施設では「変わらない」が38%、「短くなっている」が38%と多くなっている。22年度調査と比較すると、「長くなっている」が41%から16%に減り、「短くなっている」が24%から38%に増えている。



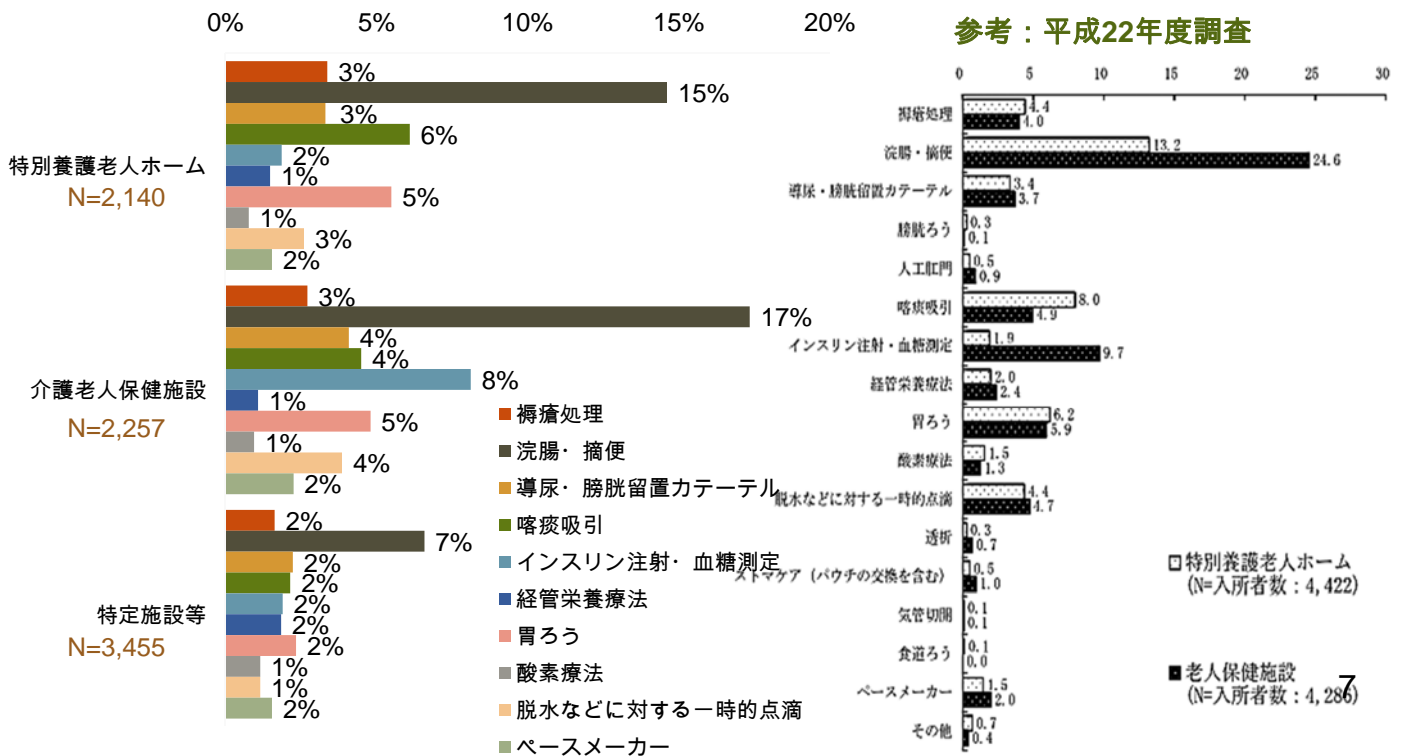
退所・退院者の入所・入院期間の変化

参考：平成22年度調査



医療ケアの状況 (医療を必要とする入所者の比率)

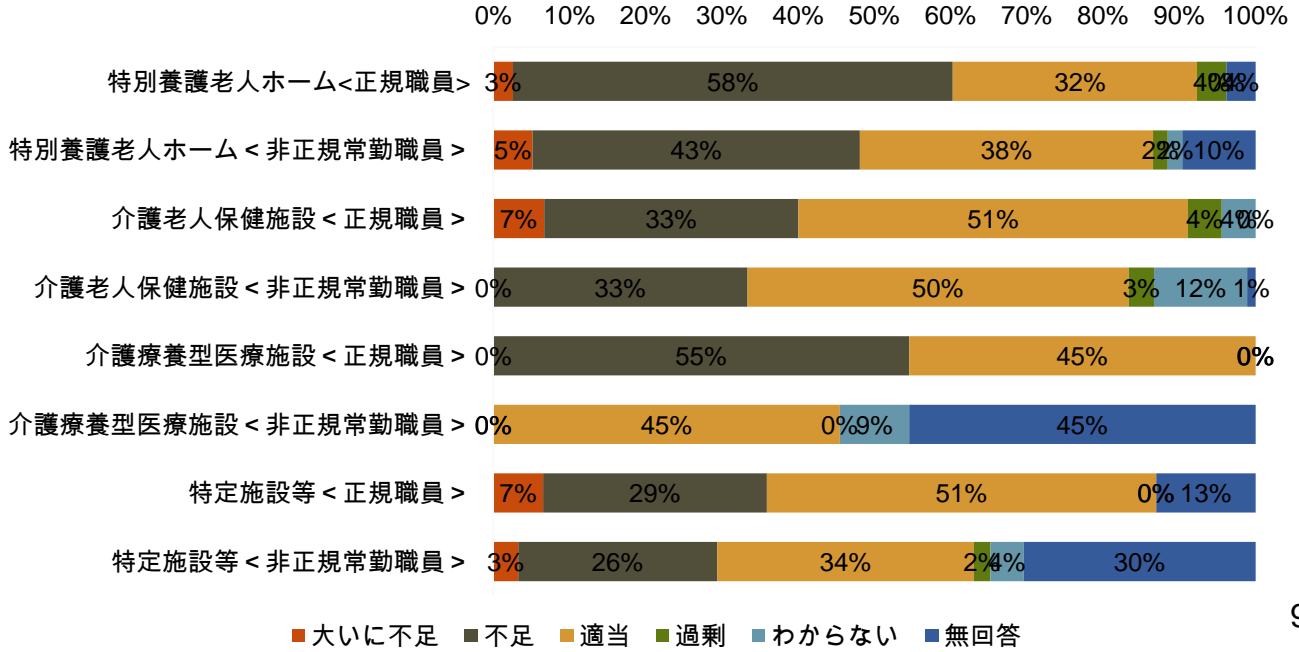
- i) 特別養護老人ホーム 「浣腸・排便」が15%、次いで「喀痰吸引」が6%、「胃ろう」5%となっている。
 ii) 老人保健施設 「浣腸・排便」が最も多く17%、次いで「インスリン注射・血糖測定」が8%となっている。
 iii) 特定施設等 「浣腸・排便」が最も多く7%。また、他施設と比べ、「経管栄養療法」が多い。



職員の充足状況

特別養護老人ホーム及び介護療養型医療施設の正規職員は、「不足」の割合が多い。老人保健施設は「適当」との回答が多いが、正規職員については「大いに不足」が7%ある。特定施設等の正規職員についても「大いに不足」が7%ある。

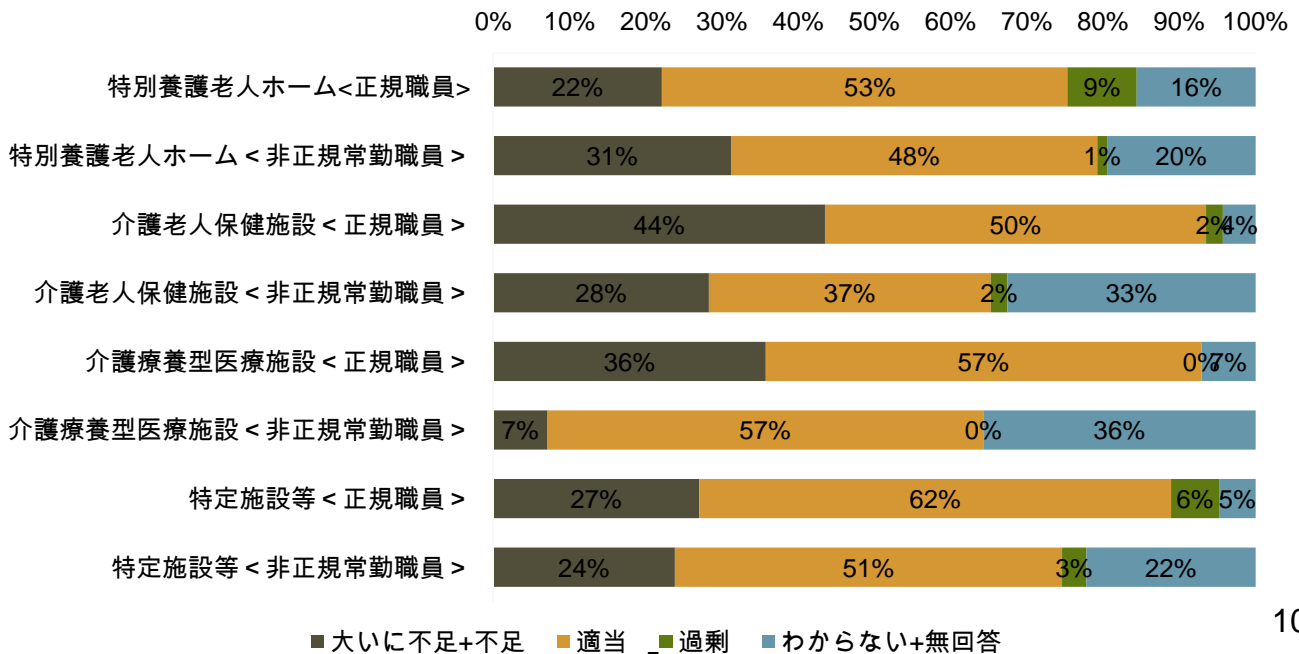
特別養護老人ホーム：N=78、介護老人保健施設：N=45、介護療養型医療施設：N=11、特定施設等：N=92



職員の充足状況

参考：平成22年度調査

特別養護老人ホーム：N=77、介護老人保健施設：N=46、介護療養型医療施設：N=14、特定施設等：N=63

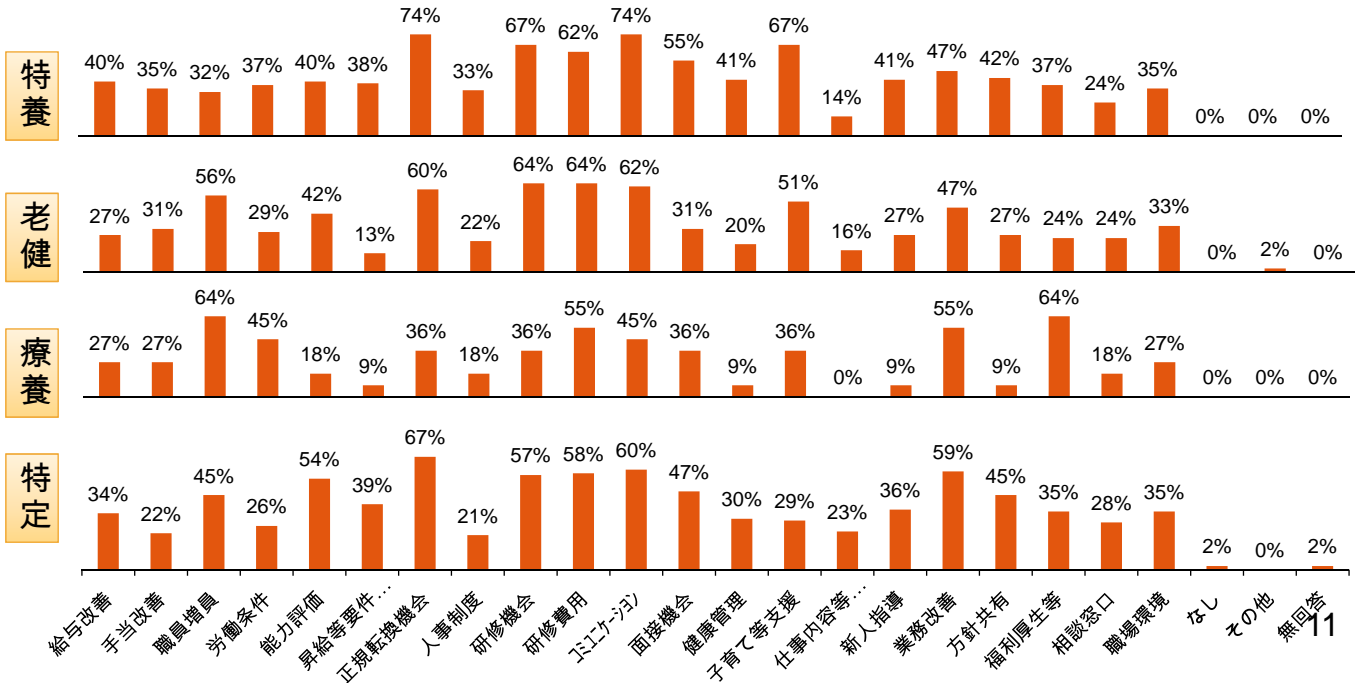


人材確保・育成の取り組み状況

いずれの施設「研修機会」、「研修費用」、「コミュニケーション」が多い。

他との比較では、特別養護老人ホームは、「正規への転換機会」や「出産子育て等支援」が、老人保健施設は「職員増員」「世紀への転換機会」が、介護療養型医療施設は「職員増員」「福祉厚生等」が、特定施設等では、「能力評価」「正規への転換機会」「業務改善」が他より多い。

特別養護老人ホーム：N=78、介護老人保健施設：N=45、介護療養型医療施設：N=11、特定施設等：N=92

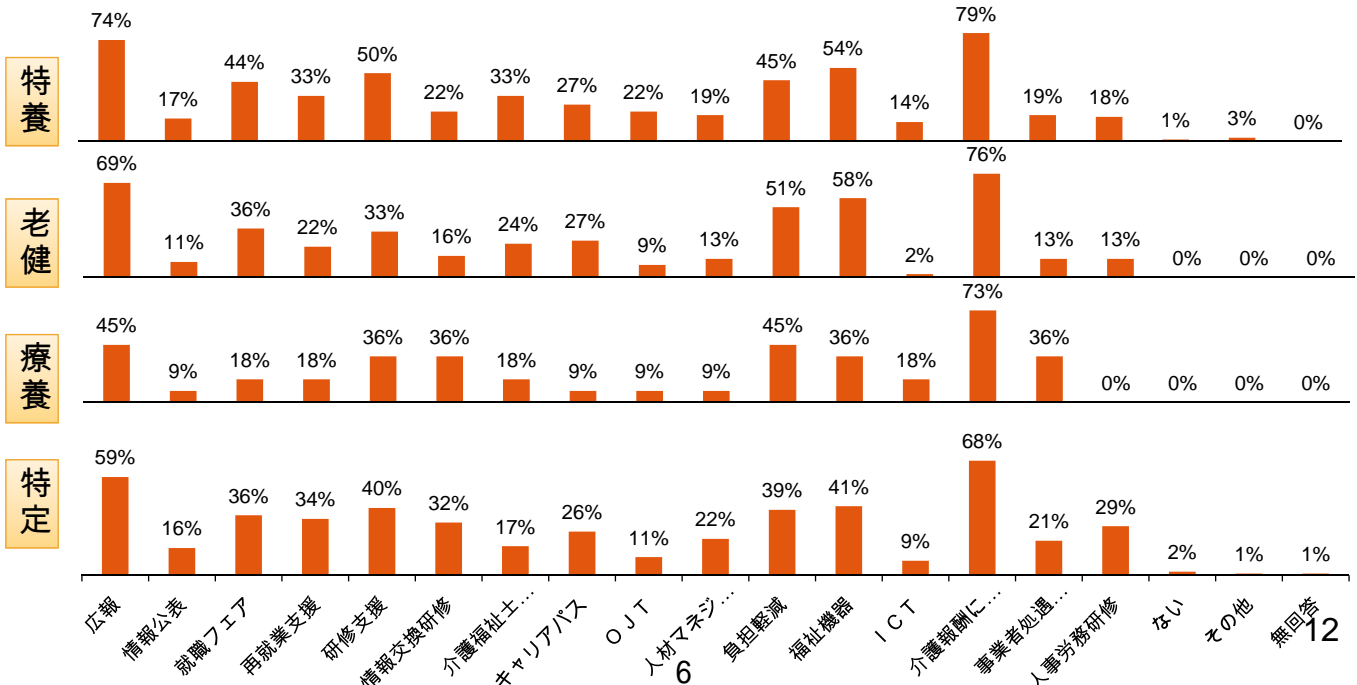


人材に関し行政・事業者団体への期待

いずれの施設も「広報」、「介護報酬改定による処遇改善」が多い。

他との比較では、特別養護老人ホームは、「就職フェア」や「福祉機器」が、老人保健施設は「負担軽減」「福祉機器」が、介護療養型医療施設は「情報交換研修」「事業者による処遇改善の取り組みの推進」が、特定施設等では「再就職支援」「人事労務研修」が、他より多い。

特別養護老人ホーム：N=78、介護老人保健施設：N=45、介護療養型医療施設：N=11、特定施設等：N=92

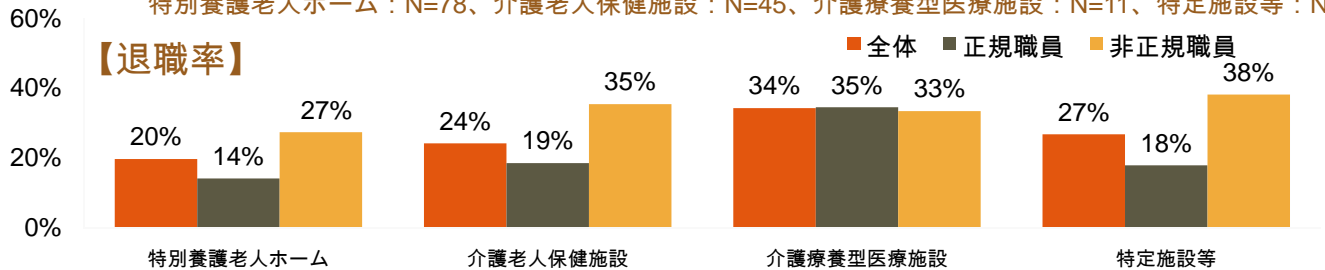


退職率・退職理由

退職率は、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設ではおおむね改善しているが、介護療養型医療施設は正規・非正規とも悪化している。特定施設等では正規は横ばいであるが非正規は悪化している。

退職理由としては、「妊娠等自分や家庭の事情」「職場の人間関係」が各施設で多い。前回と比較して、特別養護老人ホームでは「職場の人間関係」などが増加(7.9%⇒16.8%)、介護老人保健施設では「賃金」が微増(4.2%⇒7.3%)、介護療養型医療施設は「妊娠等自分や家庭の事情」が増加(11.0%⇒39.6%)、特定施設等では「多忙でじっくり仕事に取り組めない」「賃金」「労働条件」がそれぞれ微増している。

特別養護老人ホーム：N=78、介護老人保健施設：N=45、介護療養型医療施設：N=11、特定施設等：N=92



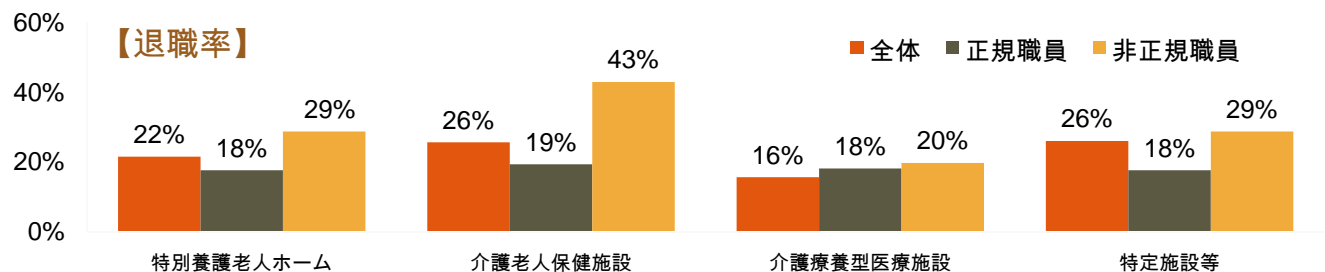
【退職理由】

	全体	①職場の人間関係	②利用者等との人間関係	③多忙でじっくり仕事に取り組めない	④責任重くストレスが大きい	⑤家庭・仕事の両立困難	⑥妊娠等自分や家庭の事情	⑦賃金	⑧労働条件	⑨健康上の問題	⑩その他の
特別養護老人ホーム	642	16.8%	0.0%	2.3%	8.4%	8.1%	26.1%	3.1%	3.0%	12.0%	19.8%
介護老人保健施設	692	22.3%	2.1%	1.8%	8.3%	4.4%	15.6%	7.3%	2.0%	8.6%	27.5%
介護療養型医療施設	189	18.1%	2.7%	3.8%	2.7%	2.7%	39.6%	9.9%	3.3%	6.0%	11.0%
特定施設等	736	12.9%	1.4%	6.0%	5.9%	7.2%	24.1%	5.9%	4.4%	9.6%	22.6%

退職率・退職理由

参考：平成22年度調査

特別養護老人ホーム：N=47、介護老人保健施設：N=36、介護療養型医療施設：N=11、特定施設等：N=92



【退職理由】

	全体	①職場の人間関係	②利用者等との人間関係	③多忙でじっくり仕事に取り組めない	④責任重くストレスが大きい	⑤家庭・仕事の両立困難	⑥妊娠等自分や家庭の事情	⑦賃金	⑧労働条件	⑨健康上の問題	⑩その他の
特別養護老人ホーム	655	7.9%	0.3%	3.4%	3.7%	5.0%	29.5%	3.7%	1.4%	11.1%	25.5%
介護老人保健施設	721	14.7%	1.1%	2.6%	5.0%	6.7%	19.0%	4.2%	3.3%	9.4%	25.0%
介護療養型医療施設	177	17.8%	0.0%	10.2%	5.9%	9.3%	11.0%	9.3%	0.8%	6.8%	28.8%
特定施設等	614	12.2%	3.3%	2.3%	8.3%	13.5%	21.5%	2.9%	2.6%	11.9%	16.1%

口腔ケア

口腔ケアの状況は、各施設とも「歯科健診」「個々人に応じたブラッシング指導」が多い。実施している施設に期待する効果をたずねたところ、介護療養型医療施設では「肺炎の予防」が80%と高く、「誤嚥防止」「口臭予防」がそれぞれ50%となっている。他の施設では、「誤嚥防止」が多く、「肺炎の予防」と続く。前回調査との比較では、介護老人保健施設は最多が「歯科健診」から「個々人に応じたブラッシング」にシフトし、特定施設等は逆となっている。期待する効果では、介護療養型医療施設において「肺炎の予防」が大幅に増加しているのに比べ、他の施設では「咀嚼力の保持」を選択する施設が増えている。

【口腔ケアの状況】

	全体	①歯科健診	②個々人に応じたブラッシング指導	③口周囲や唾液腺等のマッサージ指導	④その他	⑤実施していない
特別養護老人ホーム	78	62.8%	57.7%	37.2%	16.7%	17.9%
介護老人保健施設	45	55.6%	64.4%	40.0%	15.6%	13.3%
介護療養型医療施設	11	63.6%	72.7%	18.2%	0.0%	9.1%
特定施設等	92	65.2%	35.9%	32.6%	18.5%	17.4%

【期待する効果】

	全体	①誤嚥防止	②咀嚼力の保持	③肺炎の予防	④口臭予防	⑤その他
特別養護老人ホーム	64	64.1%	40.6%	43.8%	26.6%	9.4%
介護老人保健施設	39	51.3%	35.9%	43.6%	20.5%	5.1%
介護療養型医療施設	10	50.0%	20.0%	80.0%	50.0%	0.0%
特定施設等	76	59.2%	36.8%	40.8%	18.4%	6.6%

15

口腔ケア

参考：平成22年度調査

【口腔ケアの状況】

	全体	①歯科健診	②個々人に応じたブラッシング指導	③口周囲や唾液腺等のマッサージ指導	④その他	⑤実施していない
特別養護老人ホーム	77	61.3%	60.0%	40.0%	16.0%	12.0%
介護老人保健施設	46	52.2%	50.0%	19.6%	8.7%	10.9%
介護療養型医療施設	14	50.0%	57.1%	14.3%	7.1%	21.4%
特定施設等	63	52.4%	77.8%	38.1%	15.9%	9.5%

【期待する効果】

	全体	①誤嚥防止	②咀嚼力の保持	③肺炎の予防	④口臭予防	⑤その他
特別養護老人ホーム	63	28.6%	6.3%	27.0%	1.6%	1.6%
介護老人保健施設	39	30.8%	7.7%	25.6%	0.0%	2.6%
介護療養型医療施設	11	18.2%	9.1%	9.1%	18.2%	0.0%
特定施設等	55	20.0%	12.7%	20.0%	0.0%	0.0%

要介護2以下の入所者の在宅復帰条件

「家族の協力・理解」(72%)や「関係職種連携により総合的・継続的なケアが可能」(61%)
「介護者への精神面での支援」(58%)などが「大多数の入所者にとって特に重要」と考
える施設が多い。

N=78	1大多数の入所者 にとって特に重要	2多数の入所者に とって重要	3一部の入所者に は必要	4あまり必要では ない
① 在宅介護について家族の協力・理解が得られること。	72%	23%	5%	0%
② 介護者への精神面での支援があること。	58%	33%	8%	1%
③ 介護に関するちょっとした知識や技術を、家族が身につけること。	42%	32%	22%	3%
④ 介護サービスの種類が増えることや、利用できるサービスの量が増えること。	56%	23%	17%	4%
⑤ 必要なときにはいつでも、すぐに、短期間、施設へ入所できること。	53%	31%	14%	3%
⑥ 土日祝日や早朝・夜間でも、介護サービスが利用できること。	49%	32%	15%	4%
⑦ 夜間、地域に看護師やヘルパーを配置し、緊急時に連絡すればすぐに駆けつけてくれるサービスが利用できること。	49%	28%	19%	4%
⑧ 地域の身近なところで、なじみのスタッフによるデイサービスなどが利用できること。	27%	45%	27%	1%
⑨ かかりつけの医師やケアマネジャー、介護サービス事業者等が連携し、総合的・継続的なケアが受けられること。	61%	26%	12%	1%
⑩ ADLの悪化を防いだり、体力・健康維持のためのサービスが利用できること。	49%	33%	12%	6%
⑪ 調理困難な一人暮らし高齢者などに自宅まで食事を届けるとともに安否確認を行うサービスが充実すること。	44%	28%	24%	4%
⑫ ちょっとした手助けを近隣の人やボランティアなどに頼めること。	35%	32%	32%	1%
⑬ 地域で見守りや安否確認などをしてもらえること。	40%	29%	30%	1%
⑭ 自宅にセンサーや緊急通報装置の設置などITを活用した24時間の見守りサービスや、支援員の定期的な訪問による安否確認などのサービスが利用できること。	36%	41%	20%	3%
⑮ 風呂やトイレなど、自宅の設備や構造を使いやすいように改修したり、必要な福祉機器が導入できること。	54%	26%	20%	0%